

Ryukoku University

Sustainability Actions 2026

RYUKOKU UNIVERSITY

龍谷大学サステナビリティ基本方針

龍谷大学は、「浄土真宗の精神」を建学の精神とする大学として、人、社会、地球と共に持続可能な社会の実現に寄与すべく、次のとおりサステナビリティ基本方針を定めます。

1. 仏教の観点を踏まえた、魅力ある教育・研究・社会連携活動を推進し、多様なステークホルダーとともに、地域課題、国際課題の解決に貢献し、持続可能な社会を構築します。
2. キャンパスの隣接エリアを含め、サステナブルキャンパスを目指します。
3. 人権を尊重し、DEIB（Diversity, Equity, Inclusion, Belonging）の取り組みを推進します。
4. 公正かつ透明性の高いガバナンスを通じてサステナビリティの実現に寄与します。
5. サステナビリティに関する具体的な目標と指標を設定し、進捗を公表します。

龍谷大学 SDGs宣言
― 仏教SDGsの推進 ―

龍谷大学は、「浄土真宗の精神」を建学の精神とする大学として、「仏教SDGs」の理念を掲げて、SDGsの達成に資する取り組みを推進してきました。阿弥陀仏が「すべての生きとし生けるものを決して見捨てない」と誓われた心、すなわち「摂取不捨」の心と、SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」という理念とに共通点を見出し、この仏教的な視点を通して大学構成員自らの自省と気づきを促す、それが、本学が掲げる「仏教SDGs」です。

大学の最も重要な使命は、これからの社会を担う「人」を育むことです。龍谷大学は、全学部の必修科目として「仏教の思想」を開講しており、この講義での学びが「仏教SDGs」への共感の基盤となっています。

龍谷大学は、長期計画として、創立400周年を迎える2039年の将来像を見据えた「龍谷大学基本構想400」を策定し、龍谷大学の現代的な使命を次のとおり定めました。

- どのような状況にあっても、他者を排除するのではなく受容し、価値創造を通じて、人類や社会の発展のために貢献する。
- 人類全体の共存共栄と、地球環境と調和した社会の実現をめざした取り組みを行い、その知見を世界に広く発信し普及させていく。
- 異なる価値観を許容する未来を創出し、誰一人として取り残さない社会を形成していく変革の担い 手を育む。

「龍谷大学基本構想400」を具現化するために、ムハマド・ユヌス博士（ノーベル平和賞受賞者）が提唱するソーシャルビジネスに関する研究拠点「ユヌス ソーシャルビジネス リサーチセンター」を深草キャンパス内に設置しました。同センターを拠点として他の研究センターとが協力し、ソーシャルビジネスの分野をはじめ、様々な研究分野において、世界の人々と連携しながら、龍谷大学の掲げる使命の具現化を推進していきます。

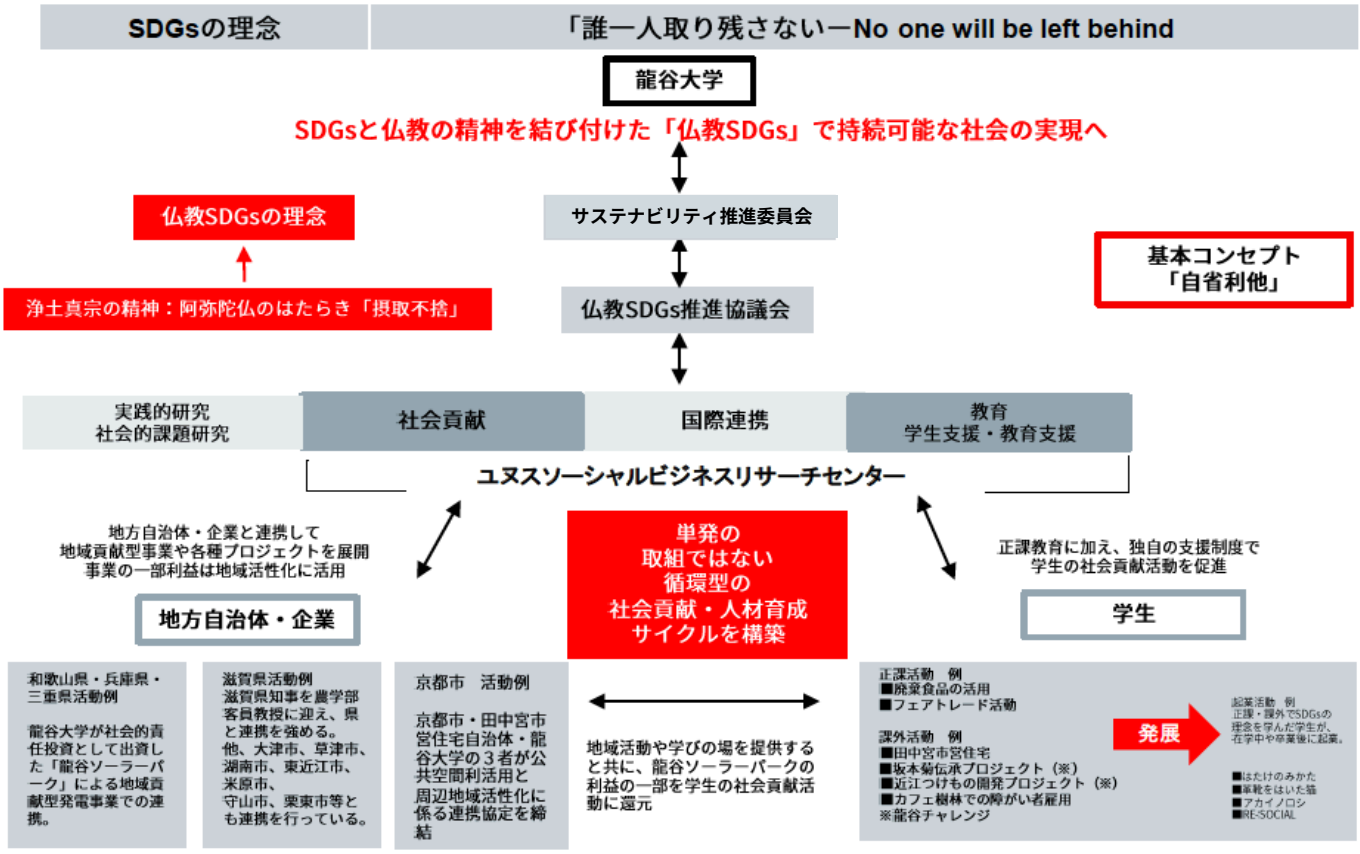
COVID-19によるパンデミックは、貧困、飢餓、社会的分断、様々な格差の深刻化といった社会課題を浮き彫りにしました。社会や人々の幸福や健康を表す「ウェルビーイング」をはじめとしたSDGsの達成の重要性がますます高まっているといえます。龍谷大学は、「仏教SDGs」の理念に立ち、過去を振り返り現状を厳しく自省し、さらなる利他的活動に取り組み、龍谷大学構成員一人ひとりが主体となって、持続可能な社会の実現に向けたあゆみを加速させる決意です。

龍谷大学は、「龍谷大学基本構想400」に掲げた「『まごころ～Magokoro～』ある市民を育み、新たな知と価値の創造を図ることで、あらゆる『壁』や『違い』を乗り越え、世界の平和に寄与するプラットフォームとなること」を具現化し、SDGsの達成に貢献することを誓い、ここに「龍谷大学SDGs宣言」を発出します。

1. 持続可能な社会を担う「まごころ」ある市民の育成に取り組みます。
2. 仏教の観点から世界の平和に寄与する学びと研究を推進します。
3. パートナーシップで経済と環境が調和する持続可能な地域社会の構築に取り組みます。
4. 多様性やジェンダー平等を重視し、誰もが自分らしく過ごせるキャンパスを実現します。
5. 国際的なイニシアチブ等を踏まえ、人権の尊重、強制労働並びに児童労働に反対する姿勢をここに表明し、環境問題や腐敗防止に積極的に取り組みます。

推進体制

龍谷大学では、SDGs達成に向けた本学独自のエコシステムを構築し、複数の目標に「横串を指す」ことで目標達成を目指します。



「THEインパクトランキング2026」
総合順位において、私大4位、西日本私大2位にランクイン



英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）社による「THE インパクトランキング」は、SDGsの枠組みを使って各大学における社会課題解決に資する取組を評価する世界的な大学ランキングで、近年注目度も高まっています。

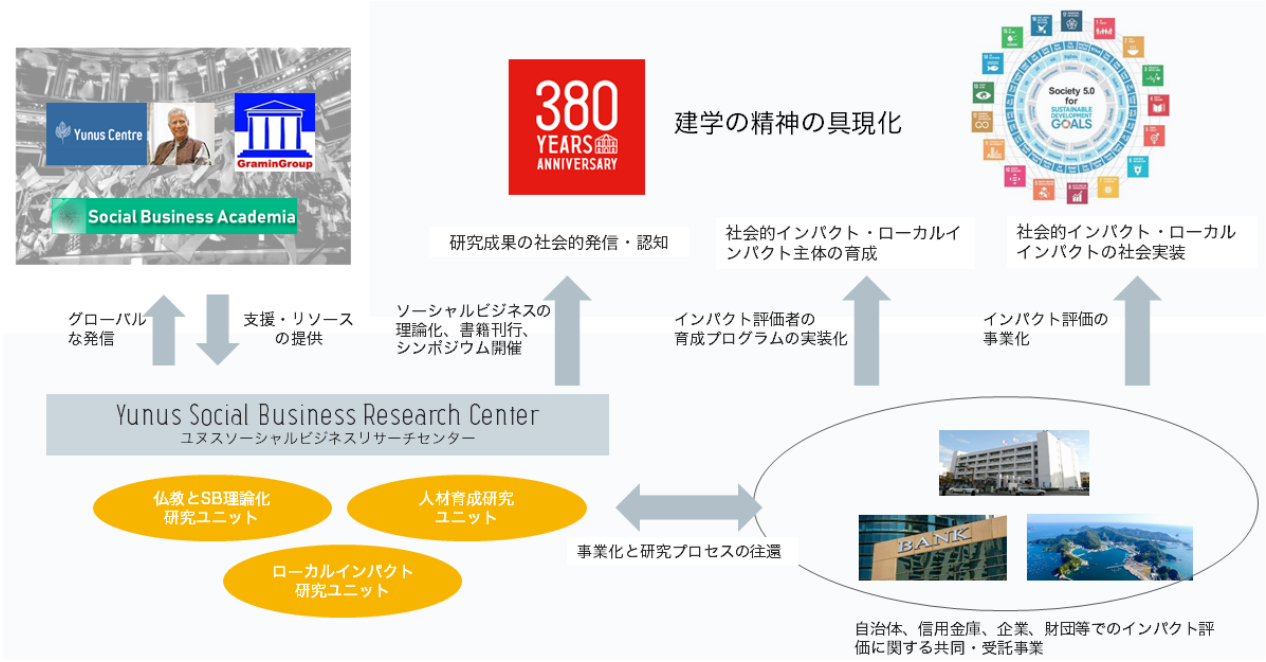
2026年6月、2026年版の結果が発表され、龍谷大学は総合順位において、世界「601-800位」、日本国内の私立大学「4位（4位タイ他2校）」、西日本の私立大学「2位」にランクインしました。

また、目標（SDG）別では、SDG2が私大2位、SDG6・7が私大2位タイ、SDG15が私大1位タイと、特に高い評価を受ける結果となりました。

ユヌスソーシャルビジネスセンター

浄土真宗の精神を建学の精神とする龍谷大学では、創立380年を記念し基本コンセプトとして「自省利他」を掲げました。その一環として、仏教の観点で持続可能な社会を考える「仏教SDGs」を推進、研究および具現化を行う、ソーシャルビジネスに関する中核的な役割を担うセンターを設置する構想が持ち上がり、ムハマド・ユヌス博士との会談を経て、センター設立について合意しました。

当センターでは、ユヌス博士、世界のユヌス・ソーシャルビジネス・センターから学び、ソーシャルビジネス論において日本をリードし、SDGsの達成へと結びつけたいと考えています。具体的には、ソーシャルビジネスの地域実装化につながるような研究活動や社会活動を支援し、大学地域連携型の事業の発展に取り組みます。中でも、若い世代の志を活かす事業の発展に力を入れる予定です。本学を含め全世界にある114のユヌスソーシャルビジネスセンターのネットワークに加わることとなり、ユヌスセンター及び他機関からの様々なサポートを活かした連携活動も展開してまいります。



【事業内容の例】

■ソーシャル企業認証制度

ソーシャル企業認証制度（通称、S認証）とは、ESG経営や社会課題の解決を目指す企業に対し、経営方針や事業内容、社会的インパクトなどを基準に、評価・認証を行う制度です。企業活動の社会的インパクトをみえる化し、社会課題に取り組む地域企業の成長を支えることで、地域社会におけるソーシャルマインドの醸成及び持続可能な地域社会の実現を目指します。また、認証制度を軸とした企業・消費者のエコシステムを構築し、地域経済の持続的成長に繋げます。

本制度において、第3者機関としてソーシャル企業認証委員会をセンターの下に設置しています。大学の各分野の専門家、及び経営、会計、行政の有識者から構成される本委員会では、一般社団法人ソーシャル企業認証機構から委託を受け、各企業・団体の社会性及び社会的インパクトについて、公平公正に審査を行っています。

■3ZERO Clubへの参加

３ZERO Clubは、ノーベル平和賞受賞者のムハマド・ユヌス教授が提唱するビジョンを達成するためのイニシアチブです。３ZERO Clubの使命は、若者が起業家精神を持ち、考え、創造し、主導し、現代の最も差し迫った社会的・環境的問題を解決できるようにすることです。

参加者が5名のグループで相互に学び合い主体的に行動しながら、全世界の他のクラブとのネットワーキングを通じて共に学び、サポートし合い、行動します。

SOGI/LGBTQの取組

性のあり方の多様性に関する基本指針

性的指向や性自認など、性のあり方は多様であり、これらに関する差別や偏見を解消し誰もが自分らしく安心して過ごすことができる大学や社会を目指すことは、すべての本学構成員が取り組むべき課題です。
龍谷大学は、「人権に関する基本方針」のもと、本学構成員の一人ひとりが、性的指向および性自認などに関する悩みや生きづらさを抱える人がいることを常に理解し、合理的な配慮を可能な限り提供するため、次のとおり基本指針を策定します。

1. 教育、学修、研究、就業等の環境において、性のあり方に関する偏見や差別が生じることがないよう不断の学習と啓発に努めます。
2. 具体的な対応にあたっては、悩みや生きづらさを抱える本人の意思を尊重して合意形成を目指します。
3. トイレや更衣室等の利用にあたり、戸籍上の性別等にかかわらず性自認にしたがって自らが選択できるよう、環境整備と理解の醸成を図ります。
4. 性のあり方に関する個人情報の保護を徹底します。

【主な取組】

龍谷大学SOGIE/LGBTQ+キャンパスライフガイド



性的指向、性自認等に関する龍谷大学の対応や手続きについて取りまとめた冊子を発行しています。

SOGI カフェ



ジェンダーやセクシュアリティなどについて語り合う気軽で自由な交流の場として「SOGIカフェ」（そじかふぇ）を半期に一回程度のペースで開催しています。

トイレ・更衣室の利用



多様なトイレニーズに対応するため、男女別トイレ以外の選択肢として性別にかかわらず利用できる「だれでもトイレ」を設置しています。

ジェンダー・セクシュアリティ相談



大学生活で、性的指向や性自認など、性に関する悩みや困っていることについて相談できる「ジェンダー・セクシュアリティ相談（ＧＳ相談）」を開設しています。

東京プライド2025に参加

誰もが共に「生と性の多様性」を認めあい、あらゆるセクシュアリティやジェンダー、国籍、職業、年齢等の人たちが理解し合う社会の創造を目指すアジア最大級のイベント「東京プライド2025」に、龍谷大学生と教職員が協同でブースを出展しました。

教職員への対応

事実婚、同性婚等、事実上婚姻関係と同様の事情または状態にある相手との関係について、婚姻の届出をしたものに相当するとみなす制度を設けています。

龍谷大学ダイバーシティ宣言

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心の一つとして「平等」の心を掲げています。『仏説阿弥陀経』には、次のような一段があります。

……さとりの国の池にはとても立派な蓮の華が咲いている。青色の蓮華は青い光、黄色の蓮華は黄色い光、赤色の蓮華は赤い光、白色の蓮華は白い色の光を放っている。一輪一輪ちがっており、それらはどれもそのまま香り高く何とも美しく素晴らしい。さとりの国はそのような徳の高い、言葉を超えた素晴らしさで満ちあふれている。（『阿弥陀経』より意訳）

阿弥陀仏の光に照らされたすべての「いのち」は各々の特徴を持ったままに光り輝いていると、教えてくださっています。阿弥陀仏には、すべての違いを認め慈しむ眼があります。

私たちもまた、その眼をいただいてみた時、いのちがそれぞれの特徴を持ったままに光り輝いている世界が見えてきます。それこそが、本当の意味での「平等」であり、現代社会が目指すべき多様性（Diversity）の本質を示しています。

人はそれぞれ、ジェンダー、性的指向・性自認、障がいの有無、人種、民族、国籍、ルーツ、宗教、信条、社会的立場、年齢など、多様な背景を持って生きており、誰一人として同じ存在はいません。

龍谷大学は、すべてのいのちが尊重され、それぞれの特徴を持ったままに光り輝ける社会の実現を目指します。そのために、次のようなダイバーシティの取り組みを、積極的に推進していくことを、ここに宣言します。

1．すべてのいのちが輝くキャンパスづくり

龍谷大学は、学生・教職員をはじめとするすべての構成員と共に、多様性（Diversity）、公正性（Equity）、包摂性（Inclusion）を積極的に推進し、誰もが受け入れられ、安心感を持てる（Belonging）キャンパスづくりを進めます。

2．未来を創出する変革の担い手の育成

龍谷大学は、自らのありようを省みながら多様な価値観を尊重し、多様な人々がそれぞれ輝ける未来を創出する、変革の担い手を育みます。

3．共存共栄と持続可能な社会への貢献

龍谷大学は、ダイバーシティの推進を通じて、人類全体の共存共栄と、地球環境と調和した持続可能な社会の実現に貢献します。

※2026年3月発出

SDGsに資する主な取組（2025年度実績）

物価高騰の影響を受ける龍谷大学生に食支援を実施



物価高騰の影響を受けている学生への支援として、親和会（保護者会）の助成を受けて前期と後期の一定期間、安価で栄養バランスのとれたメニューを提供しました。
2025年度は、2021年のコロナ禍で提供した「百縁夕食」（一食100円で栄養バランスの取れた夕食を提供）に加え、2024年度から引き続き「百縁朝食」（学生負担一食100円）や「親和会サラダ」（農学研究科生が開発したメニューを含み、昼食時に通常料金の半額の1食60円）を提供しました。

湖南メディカル・コンソーシアムが社会学部/社会学研究科ならびに農学部/農学研究科と包括連携協定を締結



2024年10月、社会学部・社会学研究科、農学部・農学研究科は地域医療連携推進法人「湖南メディカル・コンソーシアム」（滋賀県草津市）とそれぞれ包括連携協定を締結し、協定に基づき、健康・医療分野での人材育成と共同研究を進めています。具体的には学生の実習やインターンシップの機会を増やし、コンソーシアムに加盟する湖南地域の115施設の職員にリカレント教育を提供しています。また、社会福祉や食品栄養領域での共同研究等を行っています。

＜研究に関する事項＞
【農学部／農学研究科】
「アレルギー食材を考慮した子供食育食堂の共同運営と研究」
「フレイル（虚弱）予防を目的とした高齢者の食事指導教室の共同運営と研究」
【社会学部／社会学研究科】
「糖尿病・高血圧症・肥満予防などの健康教室の共同運営と研究」
「医療と介護の相談窓口で把握した児童母子・障がい児者・生活困窮者・高齢者など抱える緒問題点を集積して研究会・講習会の共同運営」

第5回龍谷大学学生気候会議2025を開催



5回目となる「龍谷大学学生気候会議」を2日間にわたり瀬田キャンパス、深草キャンパスで開催しました。
カーボンニュートラルを先導する大学として2022年1月に「龍谷大学カーボンニュートラル宣言」を発出。「龍谷大学学生気候会議」は、同宣言の達成に向けて学生らが話し合い、大学の気候ガバナンスへ参画することをめざして2021年度から開催しています。
今年度は地域や大学の脱炭素化に向け、「エネルギー」「ライフスタイル」「通勤・通学」「教育」などをキーワードに学生らが議論し、成果を提言にまとめました。

SDGsに資する主な取組（2025年度実績）

「PRIDE指標2025」ブロンズ評価を獲得

一般社団法人「work with Pride」が実施する、LGBTQなどのセクシュアル・マイノリティ（以下、LGBTQ）への取組みの評価指標「PRIDE指標2025」において、「ブロンズ」の評価となりました。本学は、取り組みの状況を確認し検証することを目的として、2018年度から継続してPRIDE指標に応募しています。2024年度はシルバーの評価でしたが、今年度は評価基準が厳しくなりブロンズの評価となりました。この結果を踏まえ、引き続き学びと改善をとおして課題を克服し、誰一人排除しない、誰一人排除されないキャンパスと社会の創造をめざしてまいります。

work with Pride Bronze 2025

社会課題に取り組む地域企業の成長を支える「ソーシャル企業認証制度 S認証」の展開

龍谷大学ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンター（以下、YSBRC）は、京都信用金庫、京都北都信用金庫、湖東信用金庫との間で2020年12月7日に締結した「ソーシャル企業認証制度の創設及び推進に関する連携協定」に基づき、社会課題に取り組む地域企業の成長を支えるべく「ソーシャル企業認証制度」を創設しました。YSBRCのもとに第三者機関として設置されたソーシャル企業認証第三者認証委員会には、教員・学外有識者に加えて学生も参加し、累計1,597社認証してきました（2026年2月時点）。企業活動の社会的インパクトの可視化や、認証制度を軸とした企業・消費者のエコシステムの構築は、地域経済の持続的成長に繋がっています。



キャンパス内にムスリム等の学生・教職員のための礼拝室を設置

本学の「DE&I」推進の一環として、学生の声にこたえ留学生寮に設置している礼拝室に加え、深草キャンパスにも設置した礼拝室を継続運用しています。男女別に各2人程度が利用できる部屋型空間で、礼拝スペース、足洗い場、イス、マット、入り口表示を備えています。
本施設は特定の宗教に限定せず、誰もが利用できる信仰のスペースとして宗教的多様性に最大限配慮しています。



SDGsに資する主な取組（2025年度実績）

安田菜津紀氏を招き 全学人権講演会を開催

2025年12月、認定NPO法人Dialogue for People副代表でフォトジャーナリストの安田菜津紀氏をお招きし、全学人権講演会「難民の声、家族の歴史から考えた『共に生きるとは何か』」を深草キャンパス成就館およびオンラインで開催しました。難民問題の最前線やご自身のルーツに関する取材を通じたご講演により、学生・教職員が現代社会における多文化共生や平和、基本的人権の尊重について深く考える貴重な機会となりました。



「ガザ人道危機」をテーマとした 実践的授業を展開

2024年度末に開催した特別講演会「歴史の忘却に抗してーガザのジェノサイドと私たち」を受け、2025年7月、社会福祉学科において「ガザ人道危機」をテーマとした授業を実施しました。前回の講演動画の活用や議論を通じ、紛争を遠い国の出来事としてではなく、人間の尊厳やソーシャルワークの視点から学生自身が人道危機を捉え直し、平和と公正な社会の構築に向けて何ができるのかを実践的に探究しました。



オープンカレッジふれあい大学課程 （ふれあい大学）を開講

オープンカレッジふれあい大学課程（ふれあい大学）では、地域で暮らす知的障がいのある人たちが年間を通じてキャンパスに通学し、本学学生とペアを組んで授業を受講しています。学生にとっては準備と振り返りを含めた実践的な学びの場として単位認定を行っています。短期大学部での開講を経て、2025年度からは深草キャンパスへ移転した「社会学部」のもとで新たな出発を切りました。新設されたキャンパス環境のもと、障がいの有無を超えて共に学び合うインクルーシブな教育実践をさらに深化させています。



SDGsに資する主な取組（2025年度実績）

SDGs推進の祭典「SDGs AICHI EXPO」へ初出展



本学におけるSDGsの取り組みを広く社会へ発信するため、2025年10月にAichi Sky Expoで開催された日本最大級のSDGs推進イベント「SDGs AICHI EXPO 2025」に初出展しました。当日は「質の高い教育をみんなに」「住み続けられるまちづくりを」をテーマに、龍谷大学とソフトバンク等が連携したハッカソンの取り組み事例などを紹介しました。多様なステークホルダーと交流し、次世代を担う子ども・ユース層に向けたSDGsの啓発と行動変容を後押ししています。



生理用ナプキンの無料提供設備「OiTr」の導入



龍谷大学では、2021年よりオイテル株式会社の生理用ナプキンの無料化を実現するサービス「OiTr」（オイテル）を導入しています。2023年5月からは龍谷大学と、オイテル株式会社、京都市の３者で連携し、京都市立学校への「OiTr」の試行設置及び児童生徒への保健指導における活用等を実施しています。 生理用ナプキンを配付するとともに、「OiTr」付属のデジタルサイネージにて月経等に関する知識や情報の周知啓発につながるような教育的コンテンツを配信し、児童生徒が月経等について一人で抱え込まずに相談しやすい環境づくりを図っています。



ウォーターサーバー（学生共同事業）の設置



自由に利用いただけるマイボトル仕様のウォーターサーバーをキャンパス各地に設置しています。
このウォーターサーバーは本学の学生が立ち上げたプロジェクトを契機として全キャンパスに導入されました。
ペットボトル等の使い捨てプラスチックゴミの削減に向けて、マイボトルの持参を促進しています。



ネイチャーポジティブの推進

ネイチャーポジティブとは、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せることを意味します。

2022年12月に開催された国連の「生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）」において、新たな世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、この中で、「ネイチャーポジティブ」の方向性が明確に示されました。国内においても、これに対応した戦略として、「生物多様性国家戦略 2023-2030」が 2023年3月末に閣議決定され、ネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みが進められています。

龍谷大学では、2024年3月に日本の大学では初となる「ネイチャーポジティブ宣言」を発出しました。以降、ネイチャーポジティブに資する取り組みを加速させています。

龍谷大学
ネイチャーポジティブ宣言

仏教に「衆生」という言葉があります。「生きているもの」という意味です。「すべての生きているもの」という「一切衆生」という語を仏教はとりわけ尊重します。古来、仏教は生きものの多様性に着眼していました。

地球上に生息する生きものの多様性と、生きもの同士の命の繋がりである生物多様性は、私たちの生活を支える基盤です。豊かな生物多様性は、食料や水、気候の安定等、生活に欠かせない様々なサービスをもたらします。しかし、私たち人間の諸活動により、その生物多様性が急速なスピードで失われつつあります。国連では新たな世界目標として、2030年までの「ネイチャーポジティブ」が明確に示され、それに向けた行動が私たち一人ひとりに求められています。地球の豊かな自然を次世代へ継承し、持続可能な社会の実現に向けて、今こそ私たちは自身の営みを省み、新たな行動に移していくことが重要と考えます。

龍谷大学では、自らを省みて他を利する「自省利他」の行動哲学を掲げ「仏教SDGs」を推進しており、教育・研究・社会貢献の各分野で生物多様性保全にかかる取り組みを展開してきました。また、龍谷の森をはじめ周辺に豊かな里山が広がる瀬田学舎や、「深草を森にする」というコンセプトのもと、森のキャンパスをめざす深草学舎はネイチャーポジティブに寄与するキャンパスです。これらは本学だからこその特色ある資源です。

現在、本学では、創立400周年を迎える2039年度末までを展開期間とする長期計画「龍谷大学　基本構想400」を推進しています。本構想では、持続可能な社会の実現に寄与すべく、将来ビジョンとして「『まごころ〜Magokoro〜』ある市民を育み、新たな知と価値の創造を図ることで、あらゆる『壁』や『違い』を乗り越え、世界の平和に寄与するプラットフォームとなる」ことを標榜しています。

このような背景等を踏まえ、本学は、ネイチャーポジティブに資する取り組みの先導役を果たす局面に立っていると考えています。よって、持続可能な社会の実現と世界の平和に貢献すべく、ここに、龍谷大学ネイチャーポジティブ宣言を発出します。

＜龍谷大学 ネイチャーポジティブ宣言＞

1. 仏教の観点から、教育研究活動を通じてネイチャーポジティブに寄与する人間を育成します
2. 人文・社会科学から自然科学まで幅広い知見を有する大学として、ネイチャーポジティブにかかる研究成果を社会実装します
3. 国・地方自治体・企業・NGO・NPO等と連携し、ネイチャーポジティブに向けた諸活動を推進するとともに、新たな価値創造に向けた取り組みを共創します
4. これらの活動に留まることなく、自身の行動を省み、自然と共生する世界の実現に向けて取り組みます

ネイチャーポジティブに資する主な取組（2025年度実績）

「龍谷の森」が地域生物多様性増進法に基づく「自然共生サイト」に認定

「ネイチャーポジティブ」実現に向け、2025年4月に施行された「地域生物多様性増進法」に基づく初めての審査が行われ、9月に本学が所有する「龍谷の森」が法定の「自然共生サイト」として正式に認定されました。9月末には環境省主催の認定式にも参加しています。2024年度の枠組みからさらに進み、生物多様性の維持・向上活動が法的に裏付けられたことで、本学が長期計画「基本構想400」で掲げる持続可能な社会の実現へ向けた貢献をより一層推進してまいります。



大学初「琵琶湖企業の森コンソーシアム」へ参画

2025年11月、多様な主体が地域の森林と関わることを目的として滋賀県が設立した協働枠組み「琵琶湖企業の森コンソーシアム」に、大学・教育機関として初めて本学が参画しました。また同月には、県主催の「しがネイチャーポジティブネットワーク」第1回現地見学会・意見交換会を瀬田キャンパスを会場として開催しました。本学の「ネイチャーポジティブ宣言」の具体化を図る取り組みであり、キャンパスや里山を拠点とした産官学連携を通じ、自然共生社会の実現を目指します。



龍谷の森



「龍谷の森」とは、滋賀県大津市にある龍谷大学瀬田キャンパスに隣接する里山林（水平面積38ha）のことです。

この森も30-40年前までは、地元住民が薪や柴をとるための薪炭林として利用されてきました。しかし、この土地を龍谷大学が1994年に購入したとき、林内には薮が生い茂り倒木が道をふさぎ、人が歩くことのできない、典型的な管理放棄された里山林でした。

しかし、龍谷大学の所有を契機に、従来の伝統的利用とは異なる里山利用が始まりました。 まず、龍谷エクステンションセンターの市民を対象とした自然観察会・里山の恵みを楽しむ会などや龍谷大学の学生向けのフィールドワーク実習の舞台となりました。 さらに、「龍谷の森」里山保全の会も結成され、より実践的な里山保全活動が始まりました。

ネイチャーポジティブに資する主な取組（2025年度実績）

高校生と連携し水圏の生物多様性評価に挑戦する「TASUKI -襷- Project」第二期開始

2024年6月に始動した、高校生と連携し水圏の生物多様性評価に挑戦する「TASUKI -襷- Project」。
本学がテクノロジーパートナーとして関わる本事業は全国へ広がり、2025年度末には宮崎県延岡市の中高生向け探究学習として展開、2026年5月からは「第二期」が始動しました。
参画する生徒たちは環境DNA技術を用いて網羅的な生物種解析を行い、「まだ誰も知らない発見」に至るプロセスを体験。ネイチャーポジティブを担う次世代の育成と、水圏環境のデータ蓄積に大きく貢献しています。



「2025年度 びわ湖100地点環境DNA調査」を実施 保全の科学的エビデンスを蓄積

龍谷大学　生物多様性科学研究センターでは、汲んだ水から生息生物の情報をとりだす「環境DNA分析」の研究・普及を進めています。
2021年から続く市民参加型プロジェクトを、2025年度も『びわ湖の日チャレンジ！』として8月に一斉実施しました。
この取り組みは滋賀県の「生物多様性しが戦略2024」に基づくネイチャーポジティブ実現の行動と連動しており、市民団体と協働で蓄積した広域的なデータは、琵琶湖の生態系保全に向けた重要な科学的エビデンスとして活用されています。



生物多様性科学研究センターを拠点とした 産官学金連携によるネイチャーポジティブの推進

龍谷大学　生物多様性科学研究センターは、「ネイチャーポジティブへの挑戦」を掲げ、産官学金連携による取り組みを推進しています。
2024年度末に開催したシンポジウムでの議論を引き継ぎ、2025年度は多様なステークホルダーとの協働をさらに深化させました。
環境DNA等の最先端技術から得られる生物多様性データを活用し、自然資本の保全と地域経済を両立させる社会システムの構築に向け、社会実装を牽引する拠点としての役割を果たしています。



サステナブルキャンパス実現に向けた基本方針

近年、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加により、地球規模で温暖化が進行し、世界各地で異常気象が多発するなど、人間活動や生態系に深刻な影響を与えています。
我々は、将来世代に良好な環境を引き継ぐため、脱炭素、資源循環、自然再興（ネイチャーポジティブ）型の持続可能な社会を築いていく責務があります。

本学は、2010年度に「エコキャンパス実現に向けた基本方針」を制定し、省エネルギー等の取り組みを継続して実施してきました。

2022年度にカーボンニュートラル宣言を発出し、これを具現化すべく、2023年6月からは、3キャンパスすべての使用電力を100%再生可能エネルギーへ切り替えています。これは西日本の大学では初、複数キャンパスを持つ私立大学では日本初の取り組みとなります。

2021年度からは、2050年カーボンニュートラル実現に向け、文部科学省と環境省が中心となり立ち上がった「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に参画しており、本学の教育・研究・社会貢献活動を通じて、国、自治体、企業、国内外の大学等との連携強化を図りながら、環境に配慮した様々な取り組みを実施しています。

そして、持続可能な社会の実現に寄与すべく、2023年度にネイチャーポジティブ宣言を発出し、2024年度にはサステナビリティ基本方針を策定しました。サステナビリティDaysやセミナー等の実施や各種環境イベントへの参加など、学外に対しても環境問題に対する意識を醸成し、行動変容を促すための取り組みを実践しています。

このように社会との共生を大学活動の理念に掲げ、教育、研究活動をおこなってきた本学にとって、社会的要請となっている環境問題への取り組みは重要なテーマであるとの認識から、下記のとおりサステナブルキャンパスの実現に向けた基本方針を定め、全ての大学構成員が一丸となって積極的に取り組みます。

また、環境問題にとどまらず、人権・ジェンダー等への対応も併せて推進していきます。

１．本学が目指すサステナブルキャンパスの基本方針（中長期目標）について

全ての学生・教職員に対して環境問題への意識を醸成し、以下の基本方針（中長期目標）にもとづき、温室効果ガス等、環境への負荷低減がはかられたキャンパスの実現を目指します。また、本学があらゆる「壁」や「違い」を乗り越え、世界の平和に寄与するプラットフォームとなるよう、多様な価値観が集うキャンパスの実現を目指します。

【サステナブルキャンパスの基本方針（中長期目標）】

1. 2039年（遅くとも2050年）までに温室効果ガスの排出量又は二酸化炭素を実質ゼロとする「ゼロカーボンユニバーシティ」を目指します。
2. 循環型社会形成に資するよう、サーキュラーエコノミーの動向を踏まえつつ、廃棄物の発生抑制、リサイクル等の取り組みを進めます。
3. 龍谷の森の維持管理・利活用や「深草を森にする」の進捗管理をはじめ、キャンパス内におけるネイチャーポジティブの取り組みを進めます。
4. DEIB（Diversity, Equity, Inclusion, Belonging）を実装したキャンパスづくりを進めます。

サステナブルキャンパス実現に向けた基本方針

2．短期目標の設定について

上記の基本方針（中長期目標）にもとづき、以下の5点を短期目標として設定し、全ての本学構成員による日常の省エネ・省資源活動を推進します。

これらの活動については、サステナビリティ推進委員会において、毎年度、評価していきます。

（1）環境負荷の低減等

- 2025年度エネルギー使用量実績を建物1㎡あたりの原油換算値（原単位）およびCO_2排出量（原単位）において、2015年度～2019年度の実績平均値比で2.5%以上の削減を目指します。
- 2025年度までに本学の教育・研究において使用する紙の使用量において、2015年度～2019年度の実績平均値比で15%以上の削減を目指します。
- 2025年度までに本学の教育・研究において排出される産業廃棄物において、2015年度～2019年度の実績平均値比で再生利用率5%以上の向上を目指します。
- 自然共生サイトに認定された龍谷の森について、2029年3月までに、地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律に基づく増進活動実施計画の認定を目指します。

（2）データ分析

省エネルギー化・省資源化の取り組み実績評価のためのデータ収集体制を整えます。

- エネルギー使用実績については、従来の各キャンパス全体のみならず、建物ごともしくは部署単位でのデータを収集し、より的確な省エネ・省資源化に向けた分析を行います。

（3）啓発

学生教職員の環境に対する意識を高めることに取り組みます。

- 地方自治体や民間企業と連携し、環境に関する講演会、研修会、イベント等を実施します。
- エネルギー使用量をWebで公表し、『見える化』を実施します。

（4）支援

環境活動を支援します。

- 学生教職員の自主的な環境活動を積極的に支援します。
- 環境問題に取り組む諸活動の状況をWeb等で発信します。

（5）事業強化

サステナブルキャンパスの実現に向けて、各種事業の強化を図ります。

- 環境に配慮した大規模な設備改修、エネルギー投資等に積極的に取り組みます。
- 組織体制の強化を図ります。

サステナブルキャンパスの実現に向けた外部評価

優良事業者の表彰

龍谷大学は、京都市より一定規模の温室効果ガスを排出する事業者の中で積極的に排出量削減に努めている事業者として「優良事業者」の評価・表彰を受けています。

CASBEEの評価

龍谷大学の建物は、建築物や街区、都市などに係わる環境性能を様々な視点から総合的に評価するためのツール「CASBEE」において、Aランク以上の評価を基準にして、環境に配慮した建築を行っています。

「KES（環境マネジメントシステム・スタンダード）ステップ1」の規格に基づく環境改善に向けた取り組み

本学は、「エコキャンパス実現」に向けた取り組みをいっそう推進する為、2013年10月に「環境宣言」を制定し、2014年3月に深草キャンパスにおいて、「KES（環境マネジメントシステム・スタンダード）ステップ1」の認証を取得しました。

認証取得以来、KES・ステップ１規格に基づく環境マネジメントを実行してまいりましたが、2025年3月に「特定非営利活動法人KES環境機構」よる4度目の確認（更新）審査を受審し、本学の環境改善活動がKES・ステップ１規格に適合していることが確認されました。

環境マネジメントシステムに基づく環境改善に向けた取り組み

1．エネルギー使用量・CO_2排出量の削減

- 空調温度・運転の適正管理を実行する
- 空調の間欠運転を実行する
- 空き教室、廊下やトイレなどの不必要な照明を消灯する
- 地球温暖化HPに定期的にエネルギー使用量を公開し、「見える化」を促進する
- BEMSから得られるエネルギー使用量を活用し、エネルギー使用量削減に向けた具体的な方策を「エコスタッフ」を通じて教職員に周知する
- 学生部を通じ、学友会に協力を要請する（課外活動時の部分照明点灯の実行等）

2．紙の使用量の削減

- 各部署ごとのコピーカウント数を公開し、「エコスタッフ」を通じカウント数増加を抑制する
- コピーや印刷の必要性の精査を呼びかける
- スキャナ使用(文書の電子化）を推進する
- 複合機機能（集合印刷・両面印刷）使用を推進する
- 文書の電子化を促進する新たなソフトウェアの導入試行を「エコスタッフ」や関連部署と行う

3．廃棄物（一般廃棄物・産業廃棄物）の削減

- 屋内ゴミ箱の分別表示を再整備する
- 分別種別をＨＰ等に公開し、学内構成員に周知・徹底する
- 入学時のオリエンテーションでの啓発活動を実施する
- リサイクル促進を呼びかけるイベントを実施（チラシ配付等）する

サステナブルキャンパスの実現に向けた主な取組（2025年度実績）

「深草を森にする」をコンセプトに 深草キャンパス大規模整備が完了





2025年4月に社会学部を新たに改組し瀬田キャンパスから深草キャンパスに移転しました。これと相まって深草キャンパスの大規模な施設整備を行いました。施設整備の創造コンセプトは、「深草を森にする」。キャンパスの各所に深草の森を体現する豊かな緑地を配置し、ベンチやパーゴラを置いて人々が集う溜まり場としました。学生や教職員はもとより地域の方などが集い、多様な交流を促す森のキャンパスになります。新築建物の内外装には、太陽光パネル、ペアガラス、LED照明等を採用するなど、本学の環境に対する姿勢を表現しています。グリーン人材を育成する大学としてキャンパスの更なるサスティナビリティ実現を推進し、地域脱炭素の拠点として貢献していきます。

3キャンパスで使用する全ての電力が 再生可能エネルギー100%へ





カーボンニュートラル実現への取り組みの一環として、再生可能エネルギーによる電力需給契約に切り替えたことにより、2023年6月から３キャンパスすべての使用電力が100%再生可能エネルギーとなりました。西日本の大学では初、複数キャンパスを持つ私立大学では日本初となる取り組みです。2024年1月1日からは、全国初の地域貢献型メガソーラー発電所「龍谷ソーラーパーク」で発電する電力を本学で活用することが可能となり、本学で使用する電力の約40%が供給されています。

瀬田キャンパスに共創を促す施設 『Green Deck』 『Sky Deck』 『Rest Nest』





龍谷大学瀬田キャンパスに、学生や研究者の共創を促す施設として、ウッドデッキ「Green Deck」、「Sky Deck」、教育研究用宿泊施設「Rest Nest」を整備しています。
なお、「Green Deck」と「Sky Deck」は滋賀県産木材「びわ湖材」の循環利用を前提とし滋賀県高島市朽木等の森林から伐採した原木を利用して建築するウッドデッキであり、学生がフィールドワークとして森林を訪れ伐採・加工現場を経験しました。

その他エコキャンパスの実現に向けた主な取組

太陽光パネルの設置

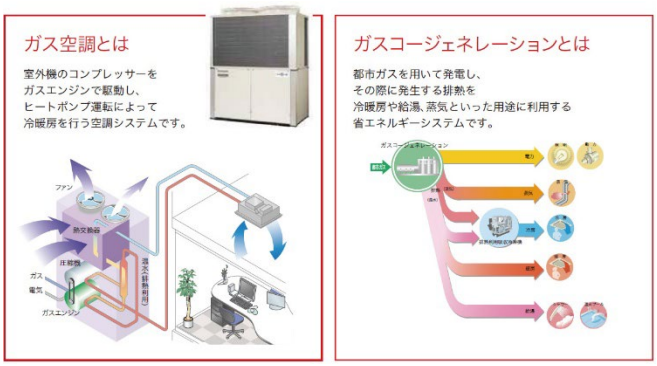
各キャンパスの建物屋上部に太陽光パネルを設置しています。

BEMSを活用したエネルギー管理

BEMS（Building Energy Management System）を活用し、空調負荷を減少させ、効率的なエネルギー管理を実施しています。

ガスコージェネレーションシステム（CGS）の設置（深草キャンパス紫英館）

CGSにより、都市ガスを燃料に発電し、同時に発生する熱エネルギーを空調などに利用することにより、省エネ対策や節電・電力ピーク対策を実施しています。停電時には重要負荷への給電を継続するため、BCP対策にも利用しています。



LED照明、センサーライトの導入

各建物内の照明をLED照明に更新し、階段等の利用者が少ない時間帯が多い共用部にはセンサーライトを導入する等、エネルギー使用量の削減に努めています。

省エネ関連工事の実施による省エネ効率の改善

エネルギー効率が低い旧式の設備・機器を計画的に更新し、省エネ効率の改善に努めています。

屋上緑化・壁面緑化

建物の屋上および壁面を緑化し、CO2削減やヒートアイランド対策など、地球温暖化対策を行っています。

トップライト

建物内に自然光を採り入れ、照明にかかるエネルギー負荷を軽減しています。

ペアガラス、熱線反射ガラス

ペアガラス、熱線反射ガラスを採用することにより、夏は強い日差しによる気温上昇を、冬は建物内の熱が外に逃げるのを防ぎ、省エネルギー化に貢献しています。

グリーン購入の促進

トイレットペーパー、コピー用紙、トナー、インク（プリンター、輪転機）など、日常的に使用する消耗品は、できる限り再生品やエコマーク商品などを購入し、環境への負荷の軽減に取り組んでいます。

ゴミ減量・リサイクル促進

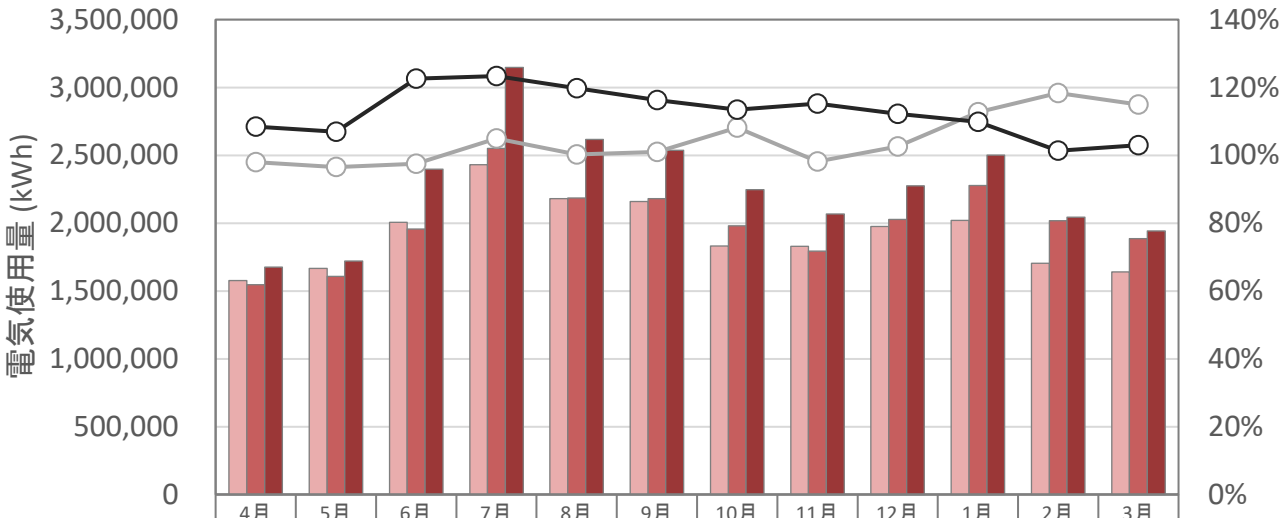
各キャンパス内にリサイクル用のごみ箱を多数設置したり、各部署内に古紙及び溶解紙回収BOXの設置を行うことで、ごみの減量とリサイクル促進に取り組んでいます。

紙の使用量削減

オンライン会議、オンライン講義を導入することにより、資料のペーパーレス化に努めています。2020年度には本格的にオンライン会議を導入し、紙の使用量を2019年度比で約50%削減することができました。

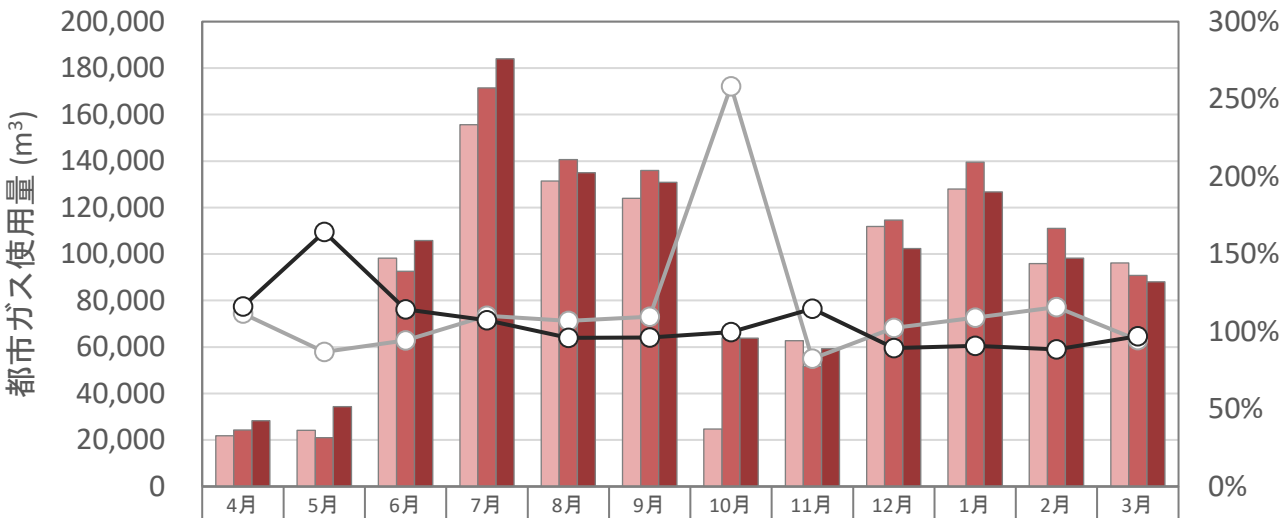
エネルギー使用量（年度比較）

電気使用量（大学全体）
2025年度～2023年度比較



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年度 kWh	1,577,2	1,665,8	2,006,6	2,430,8	2,180,2	2,159,4	1,830,8	1,827,9	1,974,3	2,020,9	1,704,4	1,640,7
2024年度 kWh	1,545,2	1,607,8	1,955,8	2,551,3	2,184,8	2,181,4	1,979,9	1,794,0	2,026,3	2,277,3	2,017,4	1,886,6
2025年度 kWh	1,675,9	1,720,0	2,398,5	3,147,1	2,617,1	2,536,7	2,246,3	2,067,4	2,274,8	2,501,2	2,044,3	1,942,3
2024/2023 %	98%	97%	97%	105%	100%	101%	108%	98%	103%	113%	118%	115%
2025/2024 %	108%	107%	123%	123%	120%	116%	113%	115%	112%	110%	101%	103%

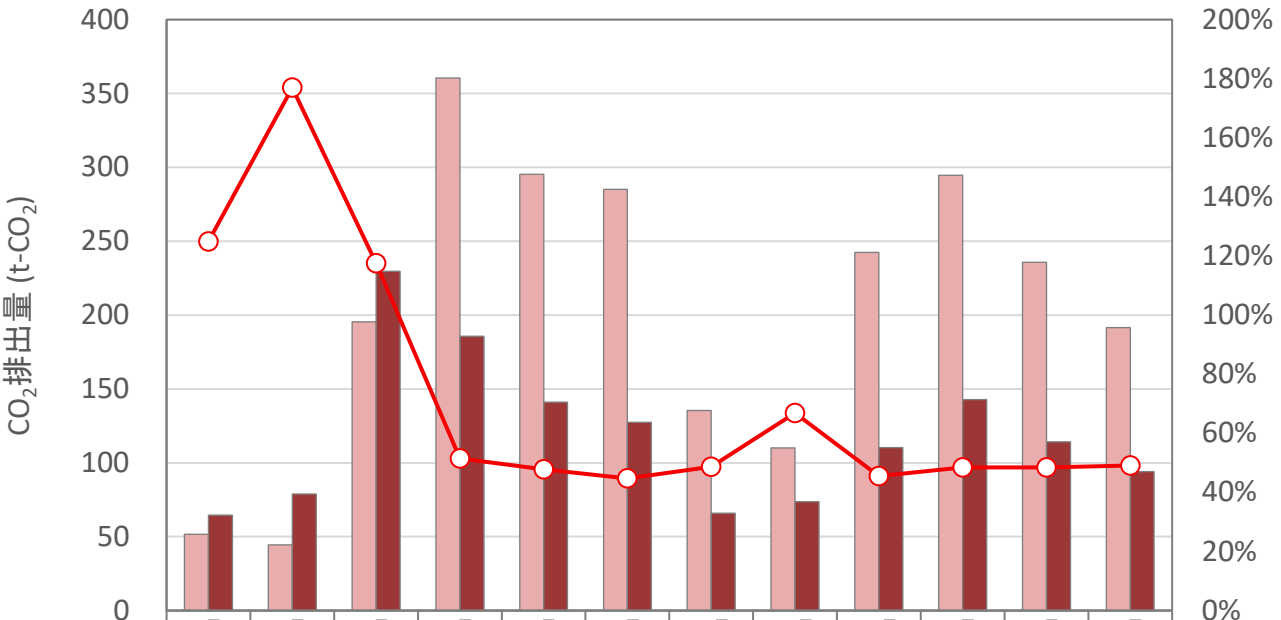
ガス使用量（大学全体）
2025年度～2023年度比較



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年度 m3	21,785	24,111	98,291	155,656	131,445	124,017	24,781	62,694	111,919	128,005	95,878	96,139
2024年度 m3	24,327	20,939	92,614	171,500	140,587	135,978	64,012	51,691	114,562	139,569	111,058	90,799
2025年度 m3	28,276	34,397	105,825	183,942	134,999	130,805	63,788	59,257	102,386	126,753	98,263	87,997
2024/2023 %	112%	87%	94%	110%	107%	110%	258%	82%	102%	109%	116%	94%
2025/2024 %	116%	164%	114%	107%	96%	96%	100%	115%	89%	91%	88%	97%

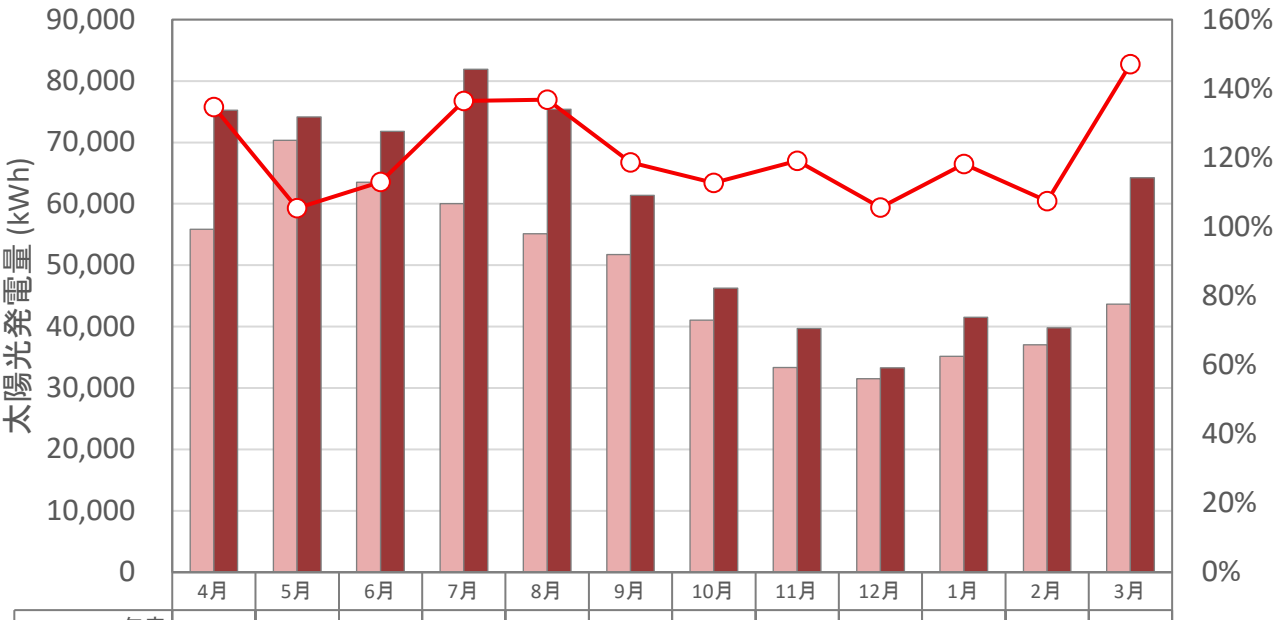
エネルギー使用量（年度比較）

CO2排出量（大学全体）
2025年度ー2024年度比較



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年度	52	45	195	360	295	285	135	110	243	295	236	192
2025年度	65	79	230	186	141	127	66	74	110	143	114	94
前年度比	125%	177%	118%	51%	48%	45%	49%	67%	45%	48%	48%	49%

太陽光発電量（大学全体）
2025年度ー2024年度比較



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年度	55,854	70,331	63,517	60,037	55,110	51,734	41,069	33,347	31,508	35,153	37,064	43,667
2025年度	75,238	74,135	71,781	81,902	75,405	61,403	46,283	39,709	33,279	41,533	39,809	64,238
前年度比	135%	105%	113%	136%	137%	119%	113%	119%	106%	118%	107%	147%

You, Unlimited

RYUKOKU UNIVERSITY